



よつばの手紙

No.14

青梅市男女平等情報紙

女性の活躍推進特号

特集 わたしらしく活躍するための未来づくり



さんかく図書室
行ってきました
現場の芽
市内企業レポート
おうめの散歩道
相談窓口の案内
人のわ

わたしらしく活躍するための未来づくり

女性の活躍ということが注目されています。国では、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現に向けて「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が制定されました。

青梅市では平成 27（2015）年度、地域女性活躍推進事業として企業等に勤める女性社員を対象に、セミナーやマネジメントスクールを開催してきました。今号では、特大号としてこれらの取り組みについて紹介します。

地域女性活躍推進事業の流れ

①啓発セミナー

2015年11月12日
講演会・セミナー

②マネジメントスクール

2015年11月から
2016年2月まで 全5回

③成果報告会

2016年3月11日
講演会・成果報告会

女性活躍推進事業での、主要な取り組みである「活躍する女性リーダーのためのマネジメントスクール」を中心となつて進めてきた中小企業診断士の川口佐和子さんに、マネジメントスクールの状況や企業現場が現在どのような環境になっているかなどをうかがいました。

Q 中小企業診断士として、どのように企業と関わっているのですか。

中小企業の業績をどのように伸ばすか、また人材の問題についても、このように社内の制度を整えたらどうかなど提案し、それぞれの企業が抱える悩みに対応しています。

中小企業診断士は、今のサラリーマンが一番取得したい資格といわれています。国家資格なので、取得すると登録され、中小・小規模事業所のコンサルティング（経営支援など）ができます。行政や商

工会議所などの公的機関からの仕事も受けやすくなります。青梅商工会議所の女性の創業支援には2年ほど関わっています。

Q 女性は社会のなかでどのような状況に置かれていると思いますか。

急激に女性の働く環境が変化していると感じています。出産後も働いている女性が多くなりました。会社の制度は十分に整っているとはいえませんが、多くの会社で賃金は男女平等になっていると感じています。また、若い経営者ほど、社会全体が女性に活躍してほしい状況にあると理解している様子がうかがえます。

Q 創業支援や様々な企業との関わりから、女性の仕事に対する考え方についてどのように感じますか。

創業支援セミナーに参加する女性の傾向として、子どもは小さいけれど今なら仕事を始められると



川口 佐和子さん

考える方と、子どもが育ちあがり、夫婦（50歳代以上）で今後の人生を考えて起業したいという方のほぼ二つの層に分かれます。

さらに、受講者の層がこの2〜3年で大きく変わったと感じています。

受講者中ほとんどの女性が大学を卒業しています。かつて、女性が大学を出ると仕事がない、25歳で寿退社が当たり前というような時代もありました。今はキャリアを積んだ方が多く、育児のために一度退職しても、再就職を考える際には、自分で起業したいという方が増えています。能力も意識も、30〜40歳代とそれ以上の方々とは

は、まったく違うと感じています。女性の方が「生き方」の選択肢が多いと思っています。

趣味を活かした店作りを考える方、きちんと融資を受けて商売をする方など、希望の職種は様々でも、多様性を共有できる社会ができあがっていると思います。

15年ほど前は、セミナーに参加はしても起業しないという方がほとんどでした。現在では、半数以上が起業を前提として目標をもつて参加しています。

**Q マネジメントスクールに
取り組んでみて感じたことを
教えてください。**

今回のマネジメントスクールは、18人が受講しました。

会社からの指示で受講した方もいれば、本人が受講したいと申し出た方もいます。受講に至る経緯はそれぞれ異なっていますが、みなさん相当に高い意識をもって受講しています。

現在の企業現場では、女性に管理職になってほしい、一方で、本

人が管理職になりたいと望んでも、見習うべきロールモデル（前例）がとても少ない状況です。だからこそ、このようなスクールに価値

があると思っています。その点で青梅はかなり先進的です。従業員数の少ないなかで、職場を離れて定期的にスクールに参加させるというのは、経営者の意識の高さと期待の表れだと感じています。

時には企業から期待されることと、自分の実力がかけ離れていることがあります。それはとてもしんどいことですが、それを耐えて、乗り越えて頑張れるかということが大切なので、中小企業診断士としても応援したいと思っています。

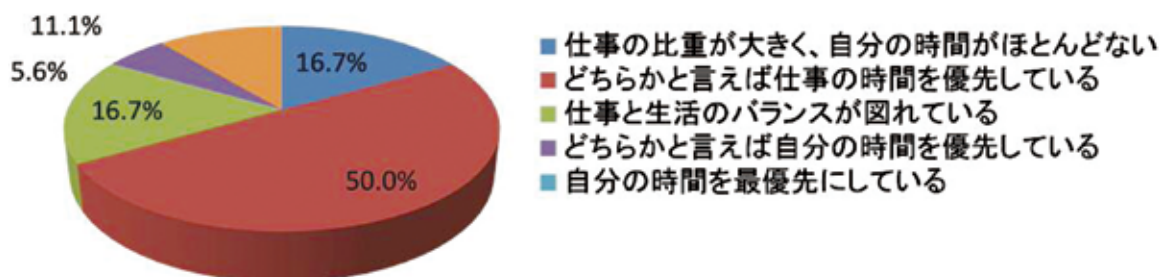
Q 男女平等意識についてどのように感じていますか。

わたしのセミナー受講者に男女平等意識を聞くと、若い方はストレスフリー（意識していない、差はない）だと感じています。こだわりがないのです。

元々女性がしっかり家庭を守ってきたというプライドのある地域

マネジメントスクール受講生に聞いてみました。

Q1 仕事と生活のバランス（ワーク・ライフ・バランス）の状況





マネジメントスクールの様子

こそ、見えないところで男女平等に対する意識が高いと思います。そのような地域で男女平等意識が仕事の面でも広がってくれば、さらに理解が進んでいくと思います。社会環境の変化も大きく影響していると思います。その一つのきっかけがリーマンショックであり、以降、家庭の収入が増えないという状況から、女性も働かざるを得ないという考え方が強まったと感じています。バブルや高度経済成長期を経験していない若い世代は、とてもしっかりといて、考え方が堅実です。消費者としても、組織のなかでの経済人としても賢いといえますね。

Q 働き続けたい女性にとつての壁（たとえば産休・育休など）を乗り越えるために、どのようなアドバイスをされますか。

今回のマネジメントスクールの取り組みのひとつとして、受講生を送り出しているいくつかの企業の経営者や人事担当者にヒアリングを行いました。そこで感じたことは、会社の制度が整っていないことも、今までの制度のなかで様々な工夫をしているということ。子どもの病気など急に何かあった時、社内・部署内でうまく調整してサポートしあっています。スケジュール管理能力においては、男性より女性の方が高いので、休んでしまった仕事を、どの時間に取り戻すかという計算ができています。これは、制度が整っているというより、それを受け入れる風土が企業内に



できているということです。無理に新たな社内制度を作ることは、経営者にとって負担であり、逆に先に進めなくなることがあります。今ある制度のなかで、会社にどのような風土を作っていくのが重要だと思っています。

大手企業とは違い、中小企業では、職員が一人でも欠けてしまうと担当する部門の仕事が成り立たない場合があります。だからこそ男女平等が浸透しやすいのではないのでしょうか。男女を問わず、様々な仕事につくことにより、力を発揮しやすい環境ができあがっているのではないかと思います。

現在、就職事情は売り手市場にあり、中小企業や小規模事業所では人材の確保が難しい時代です。当然のことですが、女性をきちんと育てなければ会社が成り立たないということを、多くの経営者は理解しています。だからこそ、どうやって活躍してもらうのか、そのためにどのような環境づくりを行うかがとても重要だと思っています。

（於：市役所2階カフェだんだん）

Q2 女性が職場や生活のなかでさらに活躍していくために必要と感ずること（抜粋）

職場においては……

- ・女性だけが集まり情報共有できる場
- ・男性が多い職場のなかで「報連相」がうまくいくこと（報連相とは報告・連絡・相談の略）
- ・遠慮がちな女性にチャレンジする機会の提供
- ・女性管理職が増える（女性ならではの発想、発言が増えると、まわりの女性にも好影響）

生活においては……

- ・女性向けのイベント開催
- ・地域のつながりによって母親が生活しやすい生活環境づくり（地域で母親が集える場所）
- ・家事、育児を女性の仕事と決めつけず、だれもが、生活するために分担する
- ・保育園などの子どもを安心して預けられる環境の充実

成果報告会

レポート

3月11日、青梅市中央図書館多目的室において、11月から2月まで4か月にわたって取り組んできた「活躍する女性リーダーのためのマネジメントスクール」受講生による成果報告会が開催されました。

それぞれに置かれている立場や境遇が異なるなかで、マネジメントスクールでは共通のテーマや目標のもとに一緒に学んできました。

成果報告会は、会社への提案・提言、個人として、リーダーとして3年後の自分の姿について、ひとりずつ発表しました。建設的で説得力のある発表、また、時には笑いありで、全員が自信を持って発表をしていました。

成果報告会には、受講生の勤務先の経営者や上司の方々も参加し、熱心に耳を傾けていました。会場では、受講生のみでなく、発表を聴いている方々からも緊張感が伝わってきました。

また、当日は、駅弁マイスターの三浦由紀江さんの講演会もあり、熱のこもった講演を聴くことができました。



成果報告会の様子



発表を終えて笑顔のみなさん

さんかく図書室

「女性実業家」をテーマに読み比べ！



あさが来た

古川智映子 原案
NHK出版

相撲が好きで、ピストルを懐中し自ら鉾山で指揮を執る。平成27(2015)年度NHK後期連続テレビ小説『あさが来た』は、銀行開業、生命保険会社の設立、晩年は日本女子大学の創立にも関わったパワフルな女性が主人公だ。ドラマを見損なってしまった方、逃さず観たけど、もっと深く味わいたい方はぜひお読みください。



お家さん

玉岡かおる 著
新潮社

鈴木よねは、神戸の小さな砂糖問屋を、世界に名だたる巨大商社へと成長させた女社長だ。混乱と発展の明治から昭和。商売もまた国を強くし暮らしを豊かに、との哲学をもって事業に挑む。書かれるのは単に、鈴木商店の盛衰ではない。よねを中心として、よねを助けた大番頭金子直吉、前夫の後妻の子珠喜、夫の前妻のお千など、様々な人物がからみ織りなす人生物語。

青梅市中央図書館で所蔵しています。 Tel 0428-22-6543

行ってきました

☆青梅市子育て支援センター☆

はぐはぐ

青梅市には親子で遊ぶことができたり、保護者同士で交流ができたりする施設が市内に数カ所あります。そのなかで今回は、0～18歳までの子どもとその保護者が利用できる青梅市子育て支援センター「はぐはぐ」に行ってきました。

「はぐはぐ」とは、育むの「はぐ」と、抱きしめるの「HUG」を合わせたもので、一般公募で決まりました。

新町市民センターの近くにある「はぐはぐ」は、NPO法人青梅こども未来が青梅市から委託を受けて運営しています。18歳以下の子どもが安心して遊ぶことができ、保護者が気軽に子育てについて相談できる多世代交流の場所です。

館内には、貸し出しできる絵本や遊び道具、特にボードゲームなどが豊富に取り揃えられています。午前中は乳幼児と保護者、午後は近隣の小学生たちの放課後利用が

多く、訪問時にも小学生たちが元気に遊んでいました。休日には青梅市在住者だけでなく、市外からも家族揃って「はぐはぐ」にやってくるようです。

乳幼児は保護者と一緒でなければ利用することはできません。10年ぐらい前までは、乳幼児と一緒に来るのはいつも母親でしたが、ここ2～3年、土日は父親が乳幼児を連れてくるが増えたそうです。子育ては女性がするものという意識が変わってきたことがうかがえます。育休中の父親が利用することもあるそうです。

利用者数は多い時には月に3000人にもなり、昨年は年間で3万5000人を超えました。スタッフは常に3人体制です。異年齢の子どもたちが出入りするため、利用者の安全確保が重要です。また、乳幼児のおもちゃは元の置き場所がわかるように写真を貼り、

市内の子育てひろば

子育て支援センター	はぐはぐ	31-1318
畑中保育園	すこやかルーム	22-8103
永山ふれあいセンター	キッズパーク	22-1111
青梅こども未来館	にこにこ広場	25-2578
今井保育園	ななくに	31-5856
今寺保育園	なかよしルーム	31-1268
青梅みどり第一保育園	みどりっこ広場	23-3600
青梅ゆりかご保育園	まめっちょ	23-5527
おそき保育園	おそきの森	74-5315
かすみ保育園	かすみ	22-2235
河辺保育園	かるがも	22-1321
駒木野保育園	こまキッズ	22-4804
新町西保育園	あおぞら	31-1429
新町東保育園	ひだまり	31-2363
友田保育園	のびっこ	22-7935
長淵保育園	ほのぼの	22-8102
梅郷保育園	うめっこ広場	76-1088
日向和田保育園	ひなたぼっこ	23-3420



利用はカードに名前を記入するだけ！
費用はかかりません

実施日時は、施設によって異なりますので、青梅市ホームページや広報おうめで確認をしてください。

問い合わせ：青梅市子ども家庭支援課 電話22-1111 内線2398

片付けの大事さを親子で学べるようにするなど、みんなが快適に過ごせるような様々な工夫を凝らしています。

「はぐはぐ」では、人と人が交流することをとても重要視しています。毎日のように開催されているいろいろな行事は、様々な年代の人と交流するのにも役立っています。

スタッフによるお話会や季節のイベントが行われ、ボランティアにお琴やベーゴマなど日本の伝統

文化を教えてもらうこともできます。子どもたちにとって親や先生以外の大人と交流できる貴重な体験の場所となっているようです。

専門の支援員による子育て相談を受けることもできます。昨今、地域の人との交流もかつてほど盛んではなくなったといわれていますが、このセンターが若い親たちの情報交換の場所、子育て応援の拠点となっていることが分かりました。



青梅市子育て支援センター はぐはぐ

青梅市新町 2-21-9

電話番号 0428-31-1318



現場の芽



ビーバークラス

健康課では、年に2回から3回程度、5歳児のお子さんをもつ家庭の親子を対象に、ビーバークラス（5歳児むし歯予防教室）を実施しています。

ビーバーのもつ、丈夫な歯のイメージが名前の由来です。

青梅市のビーバークラスの特徴は、「食育」を意識しているところです。そのため、身支度をして、親子で協力しておやつを作ります。

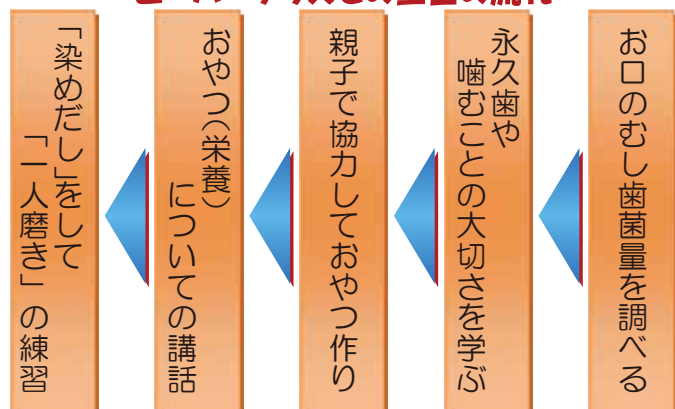
おやつはできる限り素材の持っている味を生かし、良く噛んで食べられるものを、管理栄養士が指導します。今までに、スイートポテトや餃子の皮を使ったアップル包み焼きを作りました。毎回楽しく作り、おいしく食べています。

1回の参加者は10組ほどで、親子で仲良くおやつを作りながら、「乳歯から永久歯にはえかわる大切な時期の歯のこと、もわかる」と、とても好評です。



現在、食えることから健康につながるためのキーワードである「食育」への社会全体の取り組みが、ますます大切になってきています。歯の健康を保つということは、様々な病気の予防にも密接にかかわってくる大切な項目の一つです。「歯」と「食」を同時に体験出来るこの教室は、今後ますます重要な意味をもつものになると考えています。楽しくおいしく歯について学べるビーバークラス。父親にも積極的に参加していただき、家族ぐるみで、健康を保つ習慣を身につける一つの機会にしていきたいと思っています。

ビーバークラスでの当日の流れ



～お客様にとって最も効率的で経済的な

小型モータソリューションを品質第一主義でご提案～

株式会社サーテックの石和田順社長にお話をうかがいました。

事業内容

主に機械設備に使用する各種モータの製造を行っています。お客様に満足していただくために、品質を第一に考えて最も効率的で経済的なモータソリューションを提供するように日々、心掛けています。そして、前身となる株式会社横河サーテックから50年を超える歴史のある「サーテック」ブランドを守っていきいたいと考えています。

また、弊社では、異分野連携の新事業分野開拓にも取り組んでおり、モータ製造だけでなく、再利用、コスト削減エコロジーとして油精製サービス事業にも取り組んでいます。

会社での取り組み

製造技術については、ほとんど男性が作業や管理などを行っているイメージが多いと思いますが、弊社では管理職にも技術系職にも女性職員がいて、第一線で活躍しています。製造工程に男性だけでなく、女性もかかわることで、よりきめ細かい作業が行え、品質向上にもつながっています。これからの女性が活き活きと活躍できるポジションを設けてい

きたいと思っています。

また、会社規定で産前産後休業・育児休業の制度も充実させて、女性が働きやすい環境を整えていきたいとも思っています。

モータ製造だけでなく、 異なる分野への挑戦も

現在のモータ製造でのお客様との良好な関係を維持しながら、新しく異なる分野への挑戦も行っています。2015年8月には「超音波油精製技術を用いたオイルユースサービスの提供」をテーマにした事業が国の新連携事業計画に認定されました。この事業を進めていく際、女性職員にも積極的に参画してもらい、活躍してもらいたいと考えています。弊社としては、これからの積極的な異なる分野へ挑戦していきたいと考えています。

今後について

これからも男性職員、女性職員ともにコミュニケーションを図り、技術力を向上させて切磋琢磨し、お客様の満足度と信頼度をより高めながら新規取引先を増やして会社を成長させていきたいと思っています。



株式会社サーテック

設立 2011(平成23)年1月

根ヶ布1丁目

各種モータ製造

従業員数 70人

(男性44人/女性26人)

<http://www.stc-m.co.jp/>



代表取締役社長

いしわだ じゅん
石和田 順 さん



「にゃにゃまがりの道」をご存じでしょうか？

家や塀に挟まれた細い道は、両手を広げるといっぱいになる道幅。そこにたくさんの猫のオブジェが飾られています。まさに猫だけが知っているような道。クネクネと曲がり、200歩ほどでこの道は終わります。



足元に猫、壁にタイルの猫、軒下からのぞく猫、縁の下を歩く猫、植木鉢に猫、見上げると猫、石にも猫……とにかく猫だらけです。

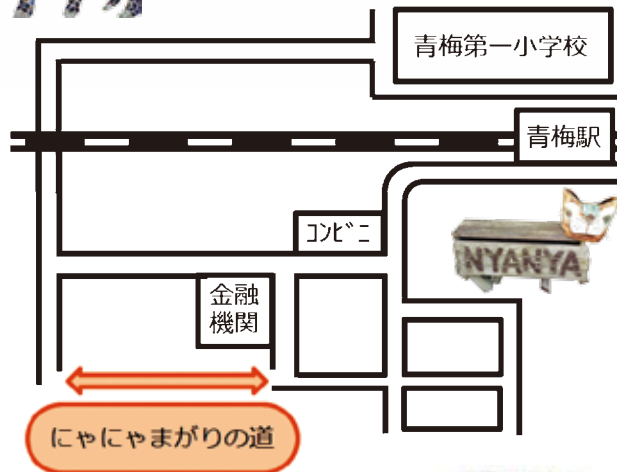
おすすめは一度進んだ道をまた戻ってみること。歩いてきた時には、気づかなかった新しい猫を発見することもあります。いろいろな猫のオブジェを見ていると、すれ違う人に思わず話しかけてしまうような人とのふれあいもあり、猫好きにはたまりません。どこか懐かしい雰囲気を感じることができる小道です。



おうちの散歩道



にゃにゃまがりの道



相談窓口の案内

	相 談 先	内 容
女性の相談	東京ウィメンズプラザ Tel03-5467-2455 毎日 9:00~21:00 (年末年始は休み)	女性の総合相談 ドメスティック・バイオレンス、夫婦・親子の問題、生き方や職場の人間関係など (就職活動の支援は行っておりません) ストーカー被害の相談は、直接警察署にご連絡ください。
	東京都女性相談センター 多摩支所 Tel042-522-4232 月~金曜日 9:00~16:00 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	
	青森市役所 Tel0428-22-1111 月~金曜日 8:30~17:00 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	
	青森警察署 Tel0428-22-0110 緊急の場合 110番通報	
女性の就職	マザーズハローワーク立川 Tel042-529-7465 月~金曜日 9:00~16:00 (土・日曜日、祝日は休み)	専属の担当相談員による女性の就職活動全般の相談(キッズスペース等併設)

男性のための悩み相談

東京ウィメンズプラザ Tel03-3400-5313 電話相談 月・水曜日 17:00~20:00 (祝日、年末年始は休み)
夫婦や親子の問題、生き方・職場の人間関係、セクシャルハラスメントやDV、デートDVなどの暴力の問題など、男性の抱えるさまざまな悩みに男性相談専門の相談員が対応

人のわ

あらい なつみ
荒井 苗都美さん（23歳）
（千ヶ瀬町在住）



素敵な笑顔が会場を包み込みました
（右）荒井さん

ミミスコンならぬババコン（おじいちゃん・おばあちゃんファッションショー）にコーディネーターとして参加し、人とふれあうことの温かさを感じました。

ババコンとは、モデル70歳以上、コーディネーターは18歳～39歳までという逆転ファッションショーです。

それでも衣装選びの時に、わたしでは思いつきもしないような柄を選んだり、モデルのおばあちゃんの知り合いの洋服屋さんに行って、お茶をいただきながら洋服を選んだり、わたしの年代の面白い物では味わえない楽しい時間を過ごすことができました。

わたしは、アクセサリー作りや小物作りが得意なので、選んでもらった着物でスカートを作り、羊毛フェ

ルトでウグイスとクジャクのコサージュを作りました。モデルのみなさんには、こちらがビックリするほど、喜んでいただきました。

モデルさんの笑顔で会場に笑顔があふれ、わたしまで笑顔になりました。



ババコンのモデルさんたち

〈編集後記〉

- 女性の活躍をテーマに作業を進めながら、仕事も子育てもしやすい環境作りに、街ぐるみ・地域ぐるみで取り組むことの大切さを、あらためて感じています。（み）
- 「男女平等」の解釈は、年齢や人によって大きな違いがありますが、男女平等参画のための出発点は、男性にも女性にもできることから。（ふ）
- 男性、女性ともにコミュニケーションを図りながら切

- 磋琢磨することで、自分自身にも会社にも有益になり、Win-Winな関係を築けていけると感じました。（い）
- 噂に聞いていた道へ初めて行き、想像以上にたくさんの猫と会う事ができました。猫好きなのでたまらない散歩道でした。（さ）
- 個性が輝く、わたしらしく生きられる未来づくりに力を入れていきたいと感じました。（か）

よつばの手紙 第14号

発行 2016年3月 青梅市企画部企画政策課 電話 0428-22-1111 内線 2423
編集 男女平等情報紙編集委員会（三輪 覚子 福島 恵美子 岩波 直樹 佐藤 裕子 川崎 茜）

よつばの手紙は「青梅市男女平等推進計画」にもとづき、男女平等参画社会の実現を目指し、編集・発行しております。みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。